

## 巨大な土地資源の存在をなぜ県民は報らされなかったのか。

### 第一 政治家の利権が絡み、不都合な真実は、口利きの財源だったからです。

人口1,360万人集積の、首都東京都の全面積、21万 $\text{km}^2$ に匹敵する広大な土地、あらゆる産業にすぐ使える平坦な土地が、違法不当な農振規制で、農業に使わず、使う必要もないのに、多様な産業の立地を排除してきた。秘密事項ではないが、利権政治家支配の岩盤規制「農業振興地域」のため、事実上その存在が県民に知らされず、秘匿されてきたものです。

これまで何回も、県発行統計書、県民手帳、その他に搭載して、実態を県民に報せ、合理的活用をはかるべきであるとの提案を行ったが、拒否されてきた。

何がなんでも隠しておきたいほど、問題が大きいということである。それは、あまりにも不合理な規制であること。政治家の利権まみれであること。土地改良事業は兼業農家の賃金収入であったこと。その実態が赤裸々に示されれば、各界に及ぼす波乱は、計り知れないものであった。

国、県の広報資料には「農用地」はあるが、「農業振興地域」の面積を示した資料は公開されていない。県の農振資料は主幹課にあり、個別の求めには応じている。市町村では、出していないところが多い。

その結果、平坦な土地の85%が農振指定で、あらゆる産業施設の立地が拒否されてきた。しかし原則があれば例外もあり、知事と市町村長の権限で、自由に指定も、解除も、変更も可能なので、裁量の余地がある。それを秘匿し、裁量の余地がないもののように装いながら、政治家の利権に利用されてきた。政権の交代が、利権の交代となり、泥沼の政争の具に供されてきたものです。その具体的事例は枚挙にいとまがありません。

「風が吹くと、桶屋が儲かる」が「不便で困る規制が多いほど、政治家が儲かる」。それが現実で、改善が進まない。

しかし、世界的に政変が起き、小池東京都知事の党派を超越した改革の嵐が、地方に飛び火して、臭いものにふたの権力は、もはや通用しない時代になった。あるべき姿を、虚心に求め合う時が来た。もう隠し遂げるものではありません。違法不当に、使えない規制をしているのが、地域の人々の資産で、人々に損害を与えていることですから、このままだと、損害賠償訴訟も起きかねないものです。県も市町村も、ほどほどに度胸を決めて、全面的に公開すること。それが賢明であります。

県土面積は、93万 $\text{km}^2$ です。そのうち平坦な人が住めるという意味で、「可住地」と言われている土地面積は、35万 $\text{km}^2$ です。この平坦な「可住地」の85%30万 $\text{km}^2$ を「農業振興地域」に指定している。この農業振興地域は、原則、農業生産以外には使えない規制です。この農振地30万 $\text{km}^2$ のうち、現に耕作されているのは7万 $\text{km}^2$ で、23万 $\text{km}^2$ は農業生産

には使われていない不要の農業振興地域指定地です。この土地は、物理的には、あらゆる産業の立地にすぐ使える土地です。必要相当の範囲を著しく超えた規制で、明らかに違法であり、それが政治家の利権のためとなれば、社会問題となる要素をはらんでいます。超巨大な産業基盤を使わないで、大勢の若者の働く仕事を造れなくして人口を減らしつつけることはもう終わりにしていただきたい。それが多くの県民の声です。

## 第二 政治家の利権が地方を衰退させ、やる気があれば繁栄する。その現実とは。

その具体的事件は枚挙にいとまがないほどであります。報道された事例をあげれば、

1 高速道路用地買収に絡んで、高額を買収で、地権者に不満がないのに、最上川土地改良区が、板垣知事から、5000万円の「つかみ金」を出させていた。その金はだれのふところどころがりこんだのか。なぞです。

2 三川町で、30%の農地を転用して、街を造り、800人の雇用を創出したのに、政治家が、この街づくりを阻止しなかったのは、政治生活最大の誤りであったと公言、その後の街の発展を抑制している。

3 米沢で、農業共済組合で、組合員水増しで、多額の補助金を詐取しながら、政治家の非常勤組合長800万円、非常勤副組合長が700万円の報酬を得ていたことに職員が、不満をもらし、報道さわぎとなり、全国に飛び火しそうになり、その終息に関係者が人知れぬ苦勞をさせられた。補助金の真実に触れることは恐ろしいことである。

4 八幡町で、間伐事業補助金詐欺が発覚し、騒ぎになったが、全県全国の問題になったら大変と、政・官の強固な圧力で、未完のまま闇に葬られた。

5 山形市で、自治会館に間借りしていた健康保険組合連合会が、専用事務所の建設を計画したが、用地が得られず、寒河江市に移転せざるをえなかった。

6 県立中央病院移転に際し、西武方面に計画したが、土地改良区の反対で、用地が得られず、漆山現在地によろやく建設できた。

7 金沢市長、吉村市長も、山形市の市街化区域の拡大と住宅地開発を計画したがそのいずれも、改良区に拒否された。

7 佐藤幸次郎山形市長は、開発許可と公共工事に関わる業者から、手あたり次第に賄賂を集め失脚した。

8 大戸村山市長、橋本東根市長も同様の汚職で失脚した。東根市長宅には盗聴器がつけられ、賄賂通話が傍受され、告発された。

9 ある山形市課長は仙台に愛人を抱え、毎月20万円の仕送りすべてを賄賂で得ていた。

10 上山市農家72人が、兼業収入確保のため旅館民宿用の温泉を掘ったが、政治家の圧力で、その温泉を使わせてもらえず、20年間も放置されている。それが「農振」

11 八幡町で鳥海山麓の観光開発、西川町の朝日山麓観光開発が、政治家の妨害で阻止された。

12 農振を適宜に解除したのが、寒河江市長佐藤誠六氏で農振、第一種農地70%を開放近隣市町の人々を含めて千人の雇用を創出した、人口四万を、十万の内陸中核都市を目指して、現佐藤市長にその方針が受け継がれている。

13 天童市阿部金蔵市長は、人口四万から、人口十万の新産業都市を目指し、農振を解除して市街化区域の拡大を進め、人口六万まで増やし、さらに田園地域に寒河江ダムの水道管を配置して、都市開発の基盤を整備した。それが歴代市長に受け継がれ、芳賀地区70%の農振、第一種農地を開放、人口三千人集積事業が着々と進められている。